【第三種郵便物認可】

地域発 世界へ

三重化学工業 保冷剤でタイ市場開拓

コロナで中断、再挑戦

保冷剤や作業用手袋を手掛ける三重化学工業（三重県松阪市）が中国に続く海外市場の開拓に挑んでいる。韓国に医療用の保冷剤を輸出し、新型コロナウイルス禍で停滞していたタイ市場参入に向けた準備も再開した。為替の円安や競合相手が少ない点が追い風になるとみている。

「タイとしっかりとした関係を築き、東南アジア市場の開拓に改めて取り組む」。山川大輔社長は強調する。12月初旬にはタイを訪れ、医療用や食品用の保冷剤を売り込んだ。すでに現地の食品卸などから取引を打診されている。

当初は現地生産も検討したが、「日本製のニーズが高い」（山川社長）とみて輸出に力を注ぐ方針だ。将来は販売会社の設立も選択肢に入れる。タイで軌道に乗れば、周辺国に展開するシナリオを描く。

タイは「業界の構造が東南アジアで最も日本に似ている」（同）。加えて食品用では小型の保冷剤が多いため、三重化学工業が手掛ける大きな保冷剤の商機があるとみている。

2020年に参入準備を本格化し、現地で開かれる展示会への出展を計画していた。連携するパートナー企業を見付ける手応えも感じていた。その後はコロナ禍で渡航できない状況となったが、現地の有力病院やアウトドア関連企業にサンプル品などを送り続けた。

足元では行動制限が緩和されてきたため、市場開拓の準備を再開した。

三重化学工業は防寒用として高いシェアを持つ作業用手袋「ミエローブ」や、食品用や医療用の保冷剤を手掛ける。初めて海外に進出したのは14年だ。作業用手袋の顧客だった日本企業から「中国の工場でも同じ製品を使いたい」と要望を受け、上海に現地法人を立ち上げた。

日系企業だけでなく中国企業にも売り込み、ピーク時の年間売上高は約1億円に達した。ただ、コロナ禍のロックダウン（都市封鎖）が響き、約5000万円に縮小している。

新たな海外市場を探るなかで、8月には韓国の首都ソウルに近い京畿道坡州（パジュ）市の企業を代理店として、医療用の保冷剤を輸出した。第1弾の輸出額は150万円と規模は小さいが、初めて韓国に足掛かりをつくった。

一方、海外を含めた事業の拡大を目指す体制づくりも進めている。20年、外部との共同研究や交流を活発化するための組織「ミエラボ」を立ち上げた。社外人材と連携し、製品の試作などに取り組む。

韓国への輸出では、この外部に開いた仕組みが奏功した。ミエラボ経由で築いた人脈を通じ、輸出先を確保したという。山川社長は「海外で成功し、ミエラボで交流する企業が海外に進出するきっかけにもなりたい」と力を込める。

（津支局長　小山隆司）

韓国でも医療用などに使う保冷剤の販売を始めた

会社概要　1956年に化学洗剤などのメーカーとして設立。62年に三重県松阪市に本社を移転。現在の主力は保冷剤と作業用手袋。2022年10月期の売上高は17億円。従業員数は約60人。